

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukush.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2018.12.15 第341号

つくしだより



平成30年12月号

2018地域家族交流会

—小池都知事をお迎えして—

都連副会長 川崎 洋子

11月24日(土)、大田区障害者総合サポートセンターで開催されました。都連

と大田つばさ会との共催となりまして、参加者は予定をはるかに超えた83名でした。



一堂に家族、当事者、支援者が集まることははじめてでした。

ご来賓は小池都知事と清水大田区副区長が列席くださいました。また、当日ご多忙中、都議の天津ひろ子氏、森 愛氏、栗下善行氏も駆けつけていただき、力強く励ましてくださいました。

1部では、都知事、大田区副区長からご挨拶があり、都知事からは精神障害に関してはいままで遅れているところもあるが、「障害者差別解消法」及び東京都障害者差別解消条例

の施行により、徐々にすすんでいること、これからも家族会と共に歩いていくとのメッセージがありました。

医療費助成、福祉手当など、これからさらに対象者の拡大が図れるように私たちもメッセージを送り続けなくてはなりません。

都知事は公務のため、残念ながらご挨拶のみで退出されましたが、その警備の厳重さは初めての体験とはいえ、驚きでした。

副区長は、大田区においては様々な会議などに家族会の参加があり、制度にも家族の意見、要望が取り入れられつつあると話されました。副区長退席の後、休憩をとり、2部がはじまりました。

9つの花テーブルを5名から6名で構成し、グループワークをしました。テーマは「家族、当事者、支援者が、今地域生活をしていてどんなことをしているか、そして何を必要としているか」の率直な意見をだし、これからの大田区、東京都の行政に要望していこうとするものです。

各テーブルには都連理事がはいり、報告者となりました。家族からは、言われ続けている「おや亡き後」のことが多くいただきました。支援者側

からは生活支援センターと訪問看護ステーションから出席されており、訪問看護からは精神障害者の利用が増えていること、支援センターは、個別支援に力を入れており、相談者は何をしてもらいたいのか、これからの自分に必要なものは何かをわがこととして、しっかり考えることが必要と思われました。

日頃、あまり自分のことは話さない当事者が、思いの他、話に加わっている姿は、たのしくもあり、ああ、親がそんなに心配しなくても良い(?)のかなとふっと思いました。

話はつきませんでした。4時を少しすぎたところで閉会となりました。会場の設定は、垂れ幕の飾り、花テーブルや軽食のセットはつばさ会のメンバーが行いました。ひと月ぐらい前から、計画、準備を始め、全員で力と頭脳を全開しましたことを、末筆にてお知らせさせていただきます。



杉並家族会50周年おめでとう

都連副会長 本田 道子

50年もの長い間家族会活動を続けてこられたこと、これはすごいこと、です。

その50年を記念する会が開かれました。10月8日のさわやかな秋晴れの中、場所は杉並公会堂。

杉並区長や議会からも大勢の議員の先生方、そして数多くの関連団体からのお祝いの方々。もちろん「東京つくし会」もです。

第2部に、東大助教授「熊谷 晋一郎氏」を迎えての講演がありその後そのテーマ「人は依存しながら生きてゆくもの」についてのパネルディスカッション。さらにそのあとに津軽三味線があり、最後は杉並区内の民生委員のみなさまによるコーラス、と盛りだくさんの内容です。

杉並家族会が50年の間に築き上げてきた地域の方々との結びつきの深さを象徴するものでした。まさに「障がい者は依存先が少ない、依存先がたくさんあった方が豊かに暮らしてゆける」を地でゆくもの、です。

ホールの外では作業所の作品の即売も行われていました。

大きなホールでのお祝い会ながら、手作りのあたたかさが感じられるお祝いの会でした。これは山本会長をはじめとした家族会の皆様の日頃の活動と、施設の若いスタッフのみなさまとがうまくハーモニーを作っていること

の反映なのだろうな、と思いました。

杉並家族会は51年目の歩みを歩き出しています。東京つくし会も一緒に、よろしくね。

「西多摩虹の会」を訪問して

都連理事 小澤 輝江

11月10日(土)、川崎副会長と鬼頭理事と3人で五日市線の秋川駅に降り立ちました。駅広場は晩秋の空でおおわれ、吾々の気持ちを清々しくしてくれました。東急ビル・ルピア産業情報室で前会長の小笠原氏及び会員の方々が迎えて下さり、定例会に列席しました。「虹の会」はあきるの市、日の出町、檜原村の3市町村の家族会です。

都連理事3人の自己紹介の後、家族会の方々が各自、近況報告となりました。

*8050問題で悩んでいる。親亡き後どうすればよいか。

*糖尿病をもつ息子、友達が出来て人間関係で穏やかになり、親は安心の境地になる。

*外来通院しなくなり一年経った。親が薬を取りに行っている。

*作業所で倒れた息子、現在は元気、但し人間関係で悩んでいる。

*息子はコンピュータスキルを誉めてくれた上司がいるので働いている。その反面、部屋はゴミだらけ、「ゴミ箱を4個用意し、誉めてコ

ミを仕分けさせたら出来るようになった。

ご家族のお話を一通り聴き終り、最後に川崎副会長がご自身の息子さんがグループホームに入り、現在は作業所に通っているという体験を話しました。「ご家族の方は病気だから出来ないという思い込みを持ってしまいがちですが、精神の方はやれば出来ますので子どもさんを信頼してゆっくり見守ってあげて下さい」と出席者を励ましました。

「虹の会」の家族の方のみならず、私自身の心の中にも感動が走りました。

「虹の会」の皆様の近況報告に接し、学ばなければならぬ親の姿勢やヒントを沢山頂きました。本日は本当に有難うございました。どうかこれからもつくし会と共に歩んでいきましよう。

~~~~~  
届いています「福祉手当」の要望の結果について

家族会の皆様がお住まいの区や市・町に出していただいた要望の結果についての報告が届けられました。動きのあったところもそうでなかったところもご報告をいただけるとうれしです。★渋谷区は議会の区長答弁で「1級に実施する」時期・金額など未定。他2つの単会からも報告がありました。東京都が実施してくれるまで何度でも要望して行きましよう。

~~~~~ (本田)

東京都の精神保健医療学習会

「都の精神保健福祉の組織や予算を含めた施策を中心にして」

みんなの会 島本禎子

11月19日(月)東京都障害者福祉会館で東京つくし会とみんなの会共同主催で開催されました。講師は 都福祉保健

局精神保健医療課長 西脇誠一郎氏でした。



「障害者がいきいきと暮らせる社会の実現を目指して！」と裏表紙に記されている分厚い資料には予想たがわず複雑な図や表が並んでいましたが、西脇課長ご自身が精神保健福祉士(psw)であるという自己紹介で少し距離が狭まった気がして学習会は進みました。

最初に都内の状況の説明。精神疾患患者推計数約55万人、うち入院患者約2万人、外来患者数53万人、手帳所持者が約10万人(平成28)と悲しい現実を物語ってはいるけれど馴染みのある数字が示され、続き精神障害者の施策について。私たちに関連する福祉保健局の歳出予算額(平成30年度一般会計)が全体で一兆1500億円。うち障害者施策推進

部の歳出予算額は1900億円余りでこれは国並みの額であると説明がありました。マル障のための165億円はこれと別のところから出ているとも話されました。その後、様々な相談窓口が紹介され、サービスや制度は、以前からのもの新規のものが表に並びうっかりしたら未知のまま過ごしてしまいうです。

西脇氏が強調された「わからない時は保健所か福祉事務所に出向いてください！対応しきれない窓口職員には温かく育てるお気持ちで接してほしい。その職員が即解決できなくても必ず繋いで進めることが可能です！」の言葉が印象的でした。確かにそうです。家族として30年もたつのに毎回制度や規定について迷うことの多い私です。窓口の職員が精神障害を理解できないまま対応している場合も多いはず。私たちは今後も福祉手当受給等の実現活動と共にさらに一般社会への精神障害理解普及のため知恵を結集していかなければならないことを今回の学習会で痛感しました。

単会の動き

大田区つばさ会は大忙し！

都連理事 鬼頭 博子



師走の商店街は昔の勢いは無くなったとはいえ春夏秋冬と年3回行われるフリーマーケットは女塚商店街の一大イベントで、この

日ばかりは沢山の人で賑わいます。「CSにしかまた」も町内会の一員として主催者側に属し、準備段階から地域の仲間たちと連携し、本番当日は「お休みどころ」として店を解放し古着やバック、小物類を店内外に飾りたて、自慢のポップコーンマシンの弾ける音とともにイザ開店。今回は呼び込み役として看板ロボ猫「オスカル」も参加しました。辺りを見回したため息ついて見つめながらの「ころにやあくん」でお年寄りや子供達はイチコロです。

この日は今年一番の寒い日でしたが、私達オカン軍団とメンバー達総勢13名は9時から16時まで、息つく暇もないくらい店内や商店街を駆け回り、キャッチ、呼び込み、あの手この手でお客様をもてなします。準備したホットドリンクはあつという間に底をつき、買い出しに走るのは今回初めてフルタイムで参加したY君。マスターはいつもきまってK君。寒空の下での店番はS君。私達はとうとう「お似合いですよん」「暖かいココアいかがですかあん」、乙女の声と笑顔でハウスマヌカンに変身。売り上げは過去最高。

終了後の反省会でメンバーが「家族が黙って片づけられもっと早く終わったのに」って。嗚呼、それでも懲りないオカン達「おしゃべりはエネルギーだます」と笑い転げ反省全くなし。疲れも歳も忘れて「大田区つばさ会」、来年も肅々と家族会の行事が続きます。

サンクラブ多摩家族会を訪問して

都連副会長 植松 和光

10月30日の午前中、小田急多摩線唐木田駅から歩いて10分ほどの所にある多摩市総合福祉センターの会議室で行われているサンクラブ多摩家族会の役員会に参加させて頂きました。

当日は、サンクラブ多摩の役員6名と稲穂家族会の方1名が出席していました。お互いに交流を持っているようです。

サンクラブ多摩の会員は約80名度で主に高森信子先生を年3回お招きして家族SSTを中心に行っているそうです。これらの活動を行っている役員体制ですが、会長、副会長制ではなく、3人の共同代表による運営です。総務や市の窓口、記録、会場手配等役割分担をして、1人の負担を軽減するために考えた策だそうです。私は中々良いなと思いました。それから、長年、精神科病院の専門職の方が顧問になっていて、会員の相談に対応してくれるそうです。私は羨ましくなりました。

今の課題としては、会員が中々増えないこと、会の広報宣伝をどのようにしていったらよいかなどがあるそうです。

役員の皆様はとても前向きで、明るい役員会でした。これからもうぞう活躍下さい。



東京つくし会のホームページをぜひ周知・ご活用ください！活動や学習会の案内や家族会紹介など、さまざまな情報を掲載しています。またご覧になったご意見、ご感想をお待ちしています。
<http://ttsukushi.sakura.ne.jp/>

★賛助会費★

小島 頼子様 2000円
ありがとうございます

講演会のお知らせ

1月12日(土)

「統合失調症の薬物治療の基本を知ろう」
講師 精神科医 国立精神・神経医療研究センター 橋本亮太氏
会場 新宿区立障害者福祉センター
主催 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

1月19日(土)

ふらここ映画祭(上映作品 もうろうをいきる、ニーゼと光のアトリエ)
会場 東村山市民プラザサンパルネ2F
主催 NPO法人けやき
問合せ けやき第一作業所 ☎042-395-9566

編集後記

先月仕事で足立区に行ってきました。たしか隅田川、江戸川、荒川を渡ったような気がするのですが、どの景色も胸が痛くなるような懐かしい思い出つながらります。まだ常磐線がSLだったころ、カーブの遙か向こうを白煙を残しながら走る列車の勇壮な姿が目に見えます。

夏休みの間祖母の家で過ごす私はいつも膨れっ面でちよっとだけ泣いていたような気がします。成田線は単線で駅前広場にはボンネットバス。石ころごと土煙あげたバスが、乗客をこちゃませにして入道雲めがけて飛び跳ねていきます。白いワンピースとリボンは真夏の風にはためき、結んだお下げをほどいてゆきます。

バスを降りると大きなニツキの木に繋がれた山羊と猟犬のリー、そして麦わら帽子を目深にかぶった少年が7歳の私を待っていてくれます。

宮崎作品よりずっとずっと昔に私はトトロの世界にいたから、火垂るの墓も知ってるから、麦わら帽子の少年を想うと今も涙がにじんできます。あの瞬間にはもう二度と戻れないから。

都連理事 鬼頭 博子



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。